MEIJI UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION TOSHIMAKU BRANCH

明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部NEWS

ホームページが変わりました。

http://meiji-toshima.com

2016年　第51号

新年のご挨拶

明治大学校友会
豊島区地域支部支部長
白砂　正人

豊島の校友の皆様、「丙申」の年、明けましておめでとうございます。

昨年、十一月十四日（土）の当豊島区地域支部平成二十七年度総会におきまして、支部長の任を拝命致しました、昭和四十四年工学部卒の白砂　正人でございます。

前支部長の三浦支部長には十年の長きわたり豊島区地域支部の活性化と地域社会への貢献活動に全力を尽くされ、今日の地域支部の隆盛を築かれました。

後に続く我々は前三浦支部長が築かれた、「老壮青」のバランスが取れ、「明るく」「仲良く」そして「楽しい」豊島区地域支部を継承することをお約束したいと思います。

昨年十一月のパリでの同時多発テロ事件、十二月パリの「COP21」国内では消費税が10％引き上げる際、現在の8パーセントに据え置く軽減税率の対象品目に酒類と外食を除く食品全般にすることで与党は合意をしました。

この様に昨年は国内外で将来にわたり期待と懸念される出来事が多くありました。

しかし、「丙申」の今年は昨年の状況から脱皮し「明るく」「仲良く」「楽しい」地域社会を築くべく校友の皆様の御協力・ご支援を頂き頑張る所存です。何卒、宜しくお願い申し上げます。

ご校友の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

※

平成二十七年度総会・懇親会開催

平成27年11月14日（土）夜、池袋西口の区立勤労福祉会館大会議場で開催されました。雨の中約80名の校友、来賓にお集まり頂き、日頃の活動内容と、新年度の事業についてご報告させて頂きました。

「地域に貢献する校友会」、「老壮青が集う校友会」の理念のもとに我が支部をリードされておりました三浦昭生支部長が、北部支部支部長に就任されましたので、支部長代行を務めて頂いた白砂正人氏が正式に支部長に就任し、あわせて新役員体制がスタート致しました。白砂新支部長から、三浦前支部長の路線を踏襲し、そして「明るく・仲良く・楽しい校友会」をモットーに支部拡大のために邁進したいと力強い挨拶がなされました。

そして懇親会は、公務ご多忙にもかかわらず高野之夫区長をはじめ和田輝男校友会副会長及び、各地域支部支部長を来賓としてお迎えし、鈴木正美東京商工会議所豊島支部会長の音頭で乾杯が行われ賑やかに始まりました。（二面へ続く）

校友・会社紹介

今回は、株式会社関越物産社長、白井宏一さん（昭和五十四年商学部卒）を目白五丁目の本社に訪ねお話を伺いました。

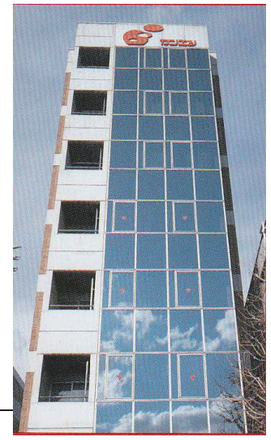
【取材・平成十九年商学部卒　島倉仁志】

株式会社関越物産は、昭和48年12月設立の「こんにゃくを中心とした、和の食材メーカー」で平成25年に、設立四十周年を迎えられました。

昭和21年、この豊島の地で先代の社長松原尚夫氏が「松原商店」を設立。こんにゃくの製造販売が始まり、以来、アクやにおいを軽減させる独自の製法、徹底した販売管理、あらゆる食材ニーズに対応する商品企画などにより順調に業績を伸ばされ、現在ではこんにゃく製造販売のシェアナンバーワン！総合食品会社としてさらなる成長を続けておられる地元優良企業です。

白井さんは、平成21年に代表に就任され、豆腐などの大豆類を扱う"株式会社健康豆元"ラーメン・うどん・そばなどの麺類を扱う"株式会社生一麺"など『関越グループ』の代表としてグローバルに活躍されています。

主力商品であるこんにゃくの原料は全て国産。こんにゃく芋は成長するまで2～3年もかかる上、寒さに弱いため冬場一旦畑から掘り出して屋内に保存し、翌春また畑に植え戻すといった大変に手間のかかる作物だそうです。日本一の生産量を誇る群馬県で丹精込めて育てられたこんにゃく芋と、日本名水百選にも選ばれた箱島の湧水と同質の地下水を使い、特許取得の独自技術"アルコール超音波洗浄"により短時間でアクを抜き、えぐみやにおいの少ない美味しいこんにゃくが出来上がります。



こんにゃく以外にも、取り扱い商品数は一六五〇アイテムにものぼります。きっと私たちも、日頃スーパーの食品コーナーやコンビニおでんなどで、意識せずに数多くの関越食材を味わっていると思います。

白井さんの学生時代から続く趣味がバンド活動。ブルーグラスミュージックやカントリーのバンドとして現在でもライブハウスに出演されることがあるとか。

それから温和な容姿からは想像できませんが、剣道はなんと七段！現在、剣道の段位は八段が最高位。七段の受審資格は「六段受有後6年以上修業」付与基準は「剣道の精義に熟達し、技倆優秀なる者」とたいへん厳しく、八段と並び日本最難関試験と呼ばれています。（Wikipedia より）

白井さんは、中学・高校から長年修練を重ねられ見事七段を授与され、現在も地元鶴ヶ島の剣友会で剣士の指導に汗を流しておられます。

日増しに寒さが厳しくなり、熱いおでんが恋しい季節となってきました。豊島が誇る関越物産と白井社長の益々のご発展を祈念し、今夜はこんにゃくを味わいながら熱燗で一杯いかがですか。

これからの行事予定

■主催「初春交流会」
日時　二月二〇日（土）18時から
会場　地球飯店

◆後援「社会貢献活動見本市」
日時　三月一二日（土）11時から
会場
豊島区としまセンタースクェアー

◆後援予定
劇団ムジカフォンテミュージカル
「蝶がくれた～すすきみみずく」
日時　三月二〇日（日）
～二一日（月）3回公演
会場　豊島区南大塚ホール

今回は、初登場となりました明治大学グリークラブOBの重厚な合唱や、毎回好評の明治大学応援団バトン・チアリーディング部現役学生（写真下）によるパフォーマンスで、会場は大盛り上がりとなりました。

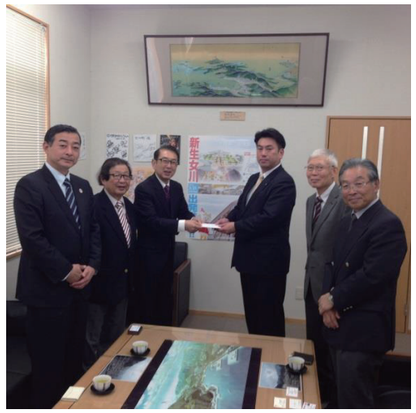
締めはもちろん参加者全員が肩を組み、応援団現役団長とOB団長のリードにより校歌を斉唱し、林務JOC名誉委員の三本締めで散会となりました。

なお総会で決定した地域支部役員は次の通り。

支部長　白砂正人
幹事長　板橋光一
副支部長　猪瀬典夫、秋元弘正
〃　長尾睦子
副幹事長　柳田好史、島村武史
〃　佐藤　操、藤田正樹
会計幹事　島倉仁志、池田　曜
常任幹事　小松　聡、坂本正秀
中島　正、霜田寛之、井上季里
知久晴美、亀山淑美、小原瑞穂
小野幸宏、栗原　駿、兼村　仁
監査役　後藤孝男、島村高彦
・
シニアフェロー
（前支部長）三浦昭生

宮城県女川町へ 震災復興義捐金を贈呈

平成27年11月17日（火）、豊島区地域支部として、校友の皆さまから託されました義捐金を宮城県女川町へ贈りました。なお、義捐金には、11月14日（土）に開催されました通常総会・懇親会での参加者からの募金も含まれております。



女川町は、水産業、特に秋刀魚漁で有名な「女川漁港」がある港町で、東日本大震災で全住宅の約90％が甚大な被害を受けました。

義捐金は、女川町仮庁舎にて、三浦昭生豊島区地域支部シニアフェロー以下5名が訪問し、校友を代表しまして板橋光一幹事長から、須田善明（すだ　よしあき）女川町長へ手渡されました。

豊島区と女川町は、同町の震災がれきの処理を受け入れたというご縁と、須田善明町長が明治大学校友（経営学部卒）という二重のご縁もあり、今回の義捐金の贈呈となりました。

須田町長から、「とりもどそう笑顔あふれる女川町」の復興スローガンの下、町民一体となって復興に全力を尽くしているという力強いお話しを頂き、また明治大学の精神でもある「前へ」という言葉を何度も繰り返し話されていた須田町長の姿が大変印象的でした。

また、復興支援という肩肘を張らずに女川町に観光に来ていただき、水産加工品等の物産を買って頂ければ、それが支援につながりますとお話しされておりました。

そのお言葉を受けて、女川水産業体験館「あがいんステーション」（「あがいん」とは、女川の方言「召し上がれ」と英語の「again」を掛け合わせた造語）のお土産コーナーで、全員が両手に持ちきれないほどの物産品を買って帰路につきました。

今後も継続して女川町支援を行ってまいりますので、校友の皆さまのご協力を引き続きよろしくお願い致します。

【総会並びに女川町訪問報告】
幹事長　昭和四十七年法学部卒
板橋光一（文責）

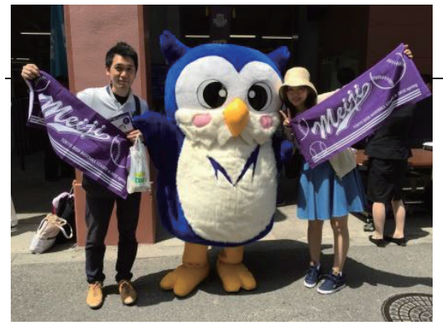
明治魂を伝える

平成十六年法学部法律学科卒
藤田　正樹

私と明治とのつながりは、高校時代からです。出身地の埼玉県旧大宮市立の中学校に通っていましたが、兄が明治大学付属明治高等学校（以下、明高）に通って、受験無しで明治大学に進学していたのを見て、「受験勉強しないで、楽して大学に行けるなら、しめたものだ」という不純な動機で、明高を受験しました。明高では、バスケット部に所属しておりましたが、下手くそだった私は、体育館の外でひたすら3年間「男坂」と「女坂」を走らされる毎日でした。おかげで忍耐力は身に付きましたが。

明治大学では、法学部に進学をしましたが、進路については、色々な体験をして決めようと考えておりました。ただ、幼い頃に、家族で海外旅行に行った記憶から、漠然と「将来は国際的な仕事をやりたい」という想いがあり、英語については必修科目以外にも、NHKラジオ「ひとくち英会話」講師を務められたマイク・マクサマック先生の講座等を取得して学んでおりました。その延長で、大学の語学留学プログラムに参加し、ニューヨークの大学に短期留学をさせていただく機会がありました。留学中に国際都市ニューヨークのダイナミックさに触れて、漠然とした「国際的な仕事」への想いが、「国際的な都市づくりに関わっていきたい」という明確な志望に変わってきました。そこで、首都である国際都市「東京」の都市づくりに関われる東京都庁を目指しました。幸運なことに、明治大学には公務員を志す学生向けの試験対策機関「行政研究所」があり、そちらに入室して勉強した結果、東京都庁に入職することができました。

「国際的な都市づくり」という華やかなイメージで入職した東京都庁でしたが、まず配属されたのは税金を徴収する都税事務所でした。納税者の方々から大切な血税を頂戴するために、毎日、自転車に乗って、担当地区をくまなく回っておりました。ただ、なかには生活困窮で税金を支払えなくなった方や資金繰りが苦しい事業主さんもたくさんおり、そのような方々からいかに血税を頂戴するかに非常に腐心しました。



このような経験をして、学生時代は海外に目を向けていた自分が、いかに足元の東京という「地域」やそこで生活する人々について目を向けていなかったかを痛感いたしました。地域の人と向き合い、つながりを作りながら、誰にとっても住みやすい都市・東京を作ることが大切であると志を改めて、仕事はもちろんのこと、地域活動にも興味を抱くようになりました。その頃、明治大学で知り合った妻との結婚を機に、豊島区に引っ越しをしましたが、地縁も血縁も無い中で、地域活動のとっかかりがありません。しかし、偶然にも豊島区後援のコミュニティビジネス講座で出会った校友の先輩から豊島区地域支部に勧誘いただきました。そして、校友の諸先輩方と一緒に、支部協賛の「社会貢献見本市」、池袋第二公園で開催される市民マーケット「えんがわ市」、明治大学サッカー部・元監督の神川明彦氏（現・グルージャ盛岡監督）が豊島区で開催されたサッカークリニックなどに参加させていただき、地域の様々な方との交流やつながりを作ることができました。

思えば、進学、就職、結婚、地域参加など、自分の人生の節目を支えてきたのは明治大学や校友との出会いだったと思います。これからも、仕事も、家庭も、地域も大切にしながら、より良い都市・東京づくりに関わっていきたいと考えております。